

今動き出す

新しいまちづくり～

震災復興基本方針を策定

町は、復旧、被災者の生活再建支援とともに、この逆境を乗り越え、傷ついた町の再生に向けて進まなければなりません。

そこで、復興の基本的な考え方や方向性、取り組みの方向性などを示す「益城町震災復興基本方針」を7月6日に策定しました。

区長、住民と意見を交換

人々が安心して暮らしていけるようにするには、元の状態に戻すだけでなく、災害に強い町として生まれ変わらなければなりません。それが「復興」です。そして、その新しいまちづくりのためには多くの知恵と力が必要となります。

そこで町では、基本方針の策定に伴い、各校区の区長会長との話し合い、および校区ごとに全区長、地区ごとに14回の住民意見交換会などを実施し、基本方針や復興計画の進め方などについての説明を行い、町民の皆さんに意見を伺いました。

皆さんからいただいたさまざまな意見や提案などは、地域住民や関係団体、議会の代表、学識経験者らで組織する「益城町復興計画策定委員会」および各分野ごとに設置された「専門部会」に報告し、今後の復興計画策定に可能な限り反映していきます。

①3か月ぶりの開催に、多くの人出で活気にあふれる「ましきメッセもやい市」②食事を楽しんだりビールでのごを潤す人たちにぎわう「益城復興市場・屋台村」



— 衝撃、に負けない —

町に元気を！ 復興への足掛かり

地震により、ほとんどの建物が損害を受けた益城町。多くの店舗が被災し営業休止に追い込まれました。また、主要路線の県道熊本高森線に沿って立つ店舗も、その大多数が損害を受け、町には喪失感が漂っていました。

そのような中、町商工会と一般社団法人まちづくり益城(熊宮敏宏代表理事)が6月25日、「益城復興市場・屋台村」を開設しました。休業中のスーパーの駐車場に設置された300平方メートルの大型仮設テナムトでは、飲食店や理髪店、衣料品や食品販売店など10数店舗が営業を開始。食事に訪れた支援者たちや久しぶりに仲間との一杯を楽しむ住民たちでにぎわいました。

た「ましきメッセもやい市」(山野一平実行委員長)が約3か月ぶりに復活。会場となっていたグラブメント七熊本が被災したため、町商工会駐車場に場所を移して開催されました。テントに採れたての野菜や加工品のほか支援者が用意した陶器などが並べられると、再開を待ち望んでいた常連客や、益城町を応援しようとした町外からの客たちが早速買い求め、会場は活気にあふれました。

また、9月6日にはスーパーとともに町内7店舗が开店する商店街、「益城テクノ笑点街7」がテクノ仮設団地にオープンしました。こうした動きは、復旧と被災者支援を推進しながら復興に向けて準備を進める町を後押しし、町民の心に元気をもたらしました。